

建設業部会

豊田商工会議所建設業部会は、一般建設業から土木・造園・不動産など、幅広い業種の皆さまが所属している部会です。例年経済講演会や要望活動を行っておりますが、今年の3月には豊田市産業部ものづくり産業振興課の皆さまと意見交換も開催しました。今年の10月には視察研修会も開催します。建設業部会の皆さまへご案内いたしますのでぜひご参加ください。

建設業部会の視点

建設業部会 (会員数1,541事業所*)

おおや のぶあき

大矢 伸明 (太啓建設株式会社 取締役社長)



当部会は、建設業に携わる12業種、1,541事業所という非常に多くの会員事業所で構成されています。

我々建設業では、さまざまな構造物を建設し、人々の暮らしを支え文明を築き上げてきました。その歴史は古く、いつの時代にも人類の暮らしとともに住居や建物がありました。それは、現代社会でも変わりません。さまざまな構造物を建設していく建設業界は現在の文明的な生活を維持するのに欠かせない存在だと思えます。当業界は市場規模が大きく、労働者も非常に多く地域経済や雇用を支える基幹産業であるとともに、社会資本の整備や災害時の緊急復旧対応など安心・安全なまちづくり

の担い手、守り手として重要な役割を果たしています。

しかし、建設業界では建設従事者の高齢化や建設業への入職者の減少など、担い手の確保が喫緊の課題となっており、これは当市でも同様の課題であります。その担い手不足の対応として、情報通信技術 (ICT)、もののインターネット化 (IoT)、人工知能 (AI) 等に代表される第4次産業革命と呼ばれるイノベーションに業界全体で積極的に取り組み、生産性の向上に努めてまいります。

そして、安心・安全なまちづくりに貢献する、地域から必要とされる業界を目指してまいりますので、よろしくお願いたします。

*会員数：平成29年3月31日現在

これまでの取り組み



●経済講演会

5月17日開催。株式会社経世論研究所 所長 三橋貴明氏より日本の経済の行方について講演いただきました。実質GDPや実質賃金などの推移をもとに、今日の日本経済についての内容を約190名の方々が熱心に聴講しました。



●豊田市長講演会

8月30日開催。豊田市長をお迎えし、今後の市政、および建設業界に関する講演会を開催。約100名の方々に参加いただき、業界全体の活性化と市政に対する理解を深める一助となりました。



●視察研修会

部会員の交流を深めるため、昨年度は約20名の方々と富山へ。日枝神社にて安全祈願や、富山市エコタウンの「環境と調和したまちづくり推進事業」を視察しました。今年度は10月12日(木)・13日(金)に、広島県尾道市の視察を計画しています。

●要望活動

例年実施

毎年当所全体の要望活動に加え、当部会では独自に豊田市への要望活動を展開しています。土木や測量等の業種独自の観点からの要望をはじめ、中小・小規模事業者も公共事業に参入し活躍できる場を創出すべく、業界全体の声を届けています。

●豊田市との意見交換会

平成28年度

豊田市産業部ものづくり産業振興課と開催。喫緊の課題として挙げられる人手不足や人材育成について、現状の問題や原因、解決方法の糸口などを官民の立場から意見交換しました。

〈部会員の声〉



宝昇建設株式会社 代表取締役 板垣 直人様

経験豊富な建設業経営者の皆さまとともに、見識を広め楽しみながら活動しております。政策提言会議においては開かれた雰囲気の中、私のような若手の意見も聞き入れてくださり、豊田市の建設業をより発展させていく気概のある方々が集う会議となっております。また、毎年開催される豊田市長講演会においては建設業における豊田市政の方向性を知り、視察研修会においては特色のある企業や地域を巡り学んだことを自企業の経営へと反映させております。今後もこのメンバーとともに豊田市の建設業発展のため、部会活動を頑張ります。



児玉 中原

お問合せ 中小企業相談所 児玉・中原 TEL: 0565-32-4593

豊田の経済を考える

当所役員の方々に、豊田市の産業・経済に寄せる思いをお話しいただくページです。今月号は、田端副会長より、経済についてお話しいただきました。

先日、市街地の一大イベントである「豊田おいでんまつり」がありましたね。まちなかの「ヒトモノ・カネ」の活発な動きを見、とよしん踊り連が「アレنجジ部門入賞」と「WE LOVE」とよた特別賞」のダブル受賞を喜んだのも束の間、もう9月。ほかに秋の気配が感じられるようになりました。

夏が過ぎ秋を迎え、という日本の季節変化は恒常のことですが、近年、日本を取り巻く世界は目まぐるしく変化しています。北朝鮮の軍事牽制、アメリカで懸念される第2のサブプライムローン問題など、日本の政治や経済を脅かすようなニュースが多々あるなか、特に欧州問題(英国のEU離脱)やアメリカ、中国といった日本の経済圏の動きは一時も目が離せません。

一方で、日本国内の経済の動きはというと、注目するのは日銀の金融政策。これまで物価上昇率2%という目標を掲げ、大規模な金融緩和策を敷いてきましたが、これは「長年続くデフレから脱却し、インフレ状態を作り出

し、物価上昇を目指すことが日本の景気回復につながる」という考え方に基づいています。この2%達成は2019年を目標にされ、達成後は、金融緩和策を正常化する「出口戦略」に向けた動きに変わります。しかしながらこのタイミングを一步誤れば、日本の景気は一気に傾く恐れがあります。

こういった国内外の脅威・リスクをはらむ状況ではあります。現在アベノミクスの効果もあり、日本経済は相対的に快方へ向かっています。そして、私たちの住まう豊田市は、リーマンショックなどの世界的金融危機以降、改善と悪化を繰り返して、徐々に景気が回復しています。障害に立ち向かい、揺るぎない成長、発展を続ける都市を目指すことが、私たちのまち、ひいては日本の明るい将来を作り出すことに繋がります。

世界的な製造業の都市であり、他市に比べて活発性があると言われる当市。活発性がある、というのは、ヒト・モノ・カネの動きが大きいことを示しますが、今後は

高齢化の進行により、それらの動きが縮小していくと思われる。具体的にいうと、高齢者数は平成25年と比較して平成32年には約2割(1.8万人)増加、平成37年には約3割(2.3万人)増加すると予想されます。若者と比べ、高齢者向けのマーケットは需要と供給面で規模が小さいため、当市の景気回復のウラガワでは、高齢化進行による将来的な活発性の低下が考えられます。これはまた、日本経済全体にもいえることであり、成熟化社会の大きな問題であります。

このような現状を踏まえながら、地域金融機関として、また豊



おいでんファイナルダブル受賞のとよしん踊り連



豊田商工会議所 副会長 田端 稔 豊田信用金庫 会長

平成22年10月～当所副会長に就任。本年春の叙勲にて旭日双光章を受章。

《元気のヒケツ》 野鳥観察と、3人の孫とのお買い物。かわいい孫のおネダリには、つつい甘くなってしまう。

田商工会議所の副会長として、当市の持続的な成長、発展のため努力していくことが大切だと思います。

つまるところ、日本の産業の中心であることを意識しながら、中小零細企業経営者、商店者、市民一人ひとりが推進役となり、身近なことでは、車一台を買うのでも地域の影響を考え、お祭へ参加し賑わいの一助となれば市内経済の動きが変わるかもしれません。今後、世界の動き、日本の動きを注視しながら、自分の身の丈にあったところ、身近なところから活動を展開していきたいと思えます。